

令和 7 年 6 月 25 日現在

機関番号：92670

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2024

課題番号：20K07837

研究課題名（和文）終末期がん患者の難治性症状に関するリアルワールド・レジストリ研究

研究課題名（英文）Real-world registry study on refractory symptoms in terminal cancer patients

研究代表者

前田 一石（Isseki, Maeda）

特定非営利活動法人 JORTC・臨床研究部門・外来研究員

研究者番号：70706639

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、終末期がん患者に対する薬物療法の実臨床での安全性・有効性を明らかにするため、webベースの多施設共同レジストリを構築し、難治性症状に関するリアルワールドデータの収集と解析を行った。悪心、せん妄、終末期鎮静、死前喘鳴、便秘、呼吸困難、予後予測などの課題に関して計20本を超える査読論文を報告し、実臨床に即した緩和治療の有効性と安全性について明らかにした。本研究は、ランダム化比較試験が困難な終末期医療の現場において、エビデンス構築と実装の双方に資する基盤整備として国内外の緩和ケア領域に貢献するものとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、終末期がん患者の難治性症状に対する薬物療法の安全性・有効性を、実臨床に即した形で明らかにするものであり、ランダム化比較試験が困難な領域において、学術的に重要なリアルワールド・エビデンスを提供した点に大きな意義がある。緩和ケアの中核的課題に対し、多施設からの臨床データを集約・解析し、国際誌での発表を通じて世界的な知見の蓄積に貢献した。社会的には、終末期医療の現場における意思決定を支援し、エビデンスに基づいた緩和治療の質の向上や患者・家族のQOL向上に寄与する。今後も本研究で構築されたレジストリ基盤を活用することで、継続的に臨床に資する知見を発信できる体制の維持が期待される。

研究成果の概要（英文）：In this study, we established a web-based, multicenter registry to clarify the real-world safety and effectiveness of pharmacological treatments for terminal cancer patients, and collected and analyzed data on refractory symptoms. We published over 20 peer-reviewed articles addressing key issues such as nausea, delirium, palliative sedation, death rattle, constipation, dyspnea, and prognosis prediction, demonstrating the clinical safety and effectiveness of palliative treatments in real-world settings. This research contributed to the field of palliative care both in Japan and internationally by building a foundational framework for generating and implementing evidence in terminal care, where randomized controlled trials are often difficult to conduct.

研究分野：緩和医療

キーワード：緩和医療 終末期がん 症状緩和

1. 研究開始当初の背景

終末期がん患者は、全身状態が不良であり、肝腎機能障害を呈する割合が高く、意識障害を伴い説明同意能力が低下する傾向があるため、一般的なランダム化比較試験 (RCT) の実施が極めて困難である。そのため、この脆弱な集団に直接適用可能なエビデンスが不足していることが長年の課題であった。

現在、終末期の難治性症状(呼吸困難、疼痛、せん妄、嘔気嘔吐など)

に対する薬物療法は、比較的全身状態の良いがん患者や非がん患者を対象とした RCT の結果を外挿して行われているのが現状である。しかし、この外挿の妥当性については、安全性と有効性の両面において重大な懸念が存在していた。RCT の対象集団と、実際の緩和ケア病棟や在宅で終末期を過ごす患者集団との間に大きな乖離があるため、RCT で得られた「アイディールワールドデータ」がそのまま実臨床の「リアルワールド」に適用できないという問題点が強く認識されていた。

この背景から、実際の診療現場における終末期がん患者の薬物療法の安全性と有効性を直接的に明らかにする必要性が高まった。従来の介入研究では捉えきれない、多様な背景を持つ患者群に対する治療効果と安全性の評価は、質の高い終末期ケアを提供する上で不可欠な情報であり、そのエビデンスを構築することが喫緊の課題であった。

2. 研究の目的

本研究の目的は、終末期がん患者の難治性症状に対する薬物療法について、**リアルワールドデータ (RWD) **に基づいた安全性と有効性を明らかにすることである。具体的には、以下の点を目的とする。

緩和治療のレジストリ研究を継続実施し、終末期がん患者に特徴的な難治性症状 (難治性疼痛、呼吸困難、気道分泌亢進、悪心嘔吐、せん妄など) に対する薬物療法の RWD を体系的に収集する。収集した RWD を分析し、実臨床における各薬物療法の安全性と有効性を評価する。

本研究で得られた RWD を、既存のランダム化比較試験等の結果と比較検討し、既存エビデンスが終末期がん患者の脆弱な集団に適用可能であるか否かを検証する。

RWD に基づき、脆弱な終末期の集団にも適用可能な治療法の確立を目指す implementation science への貢献を果たす。

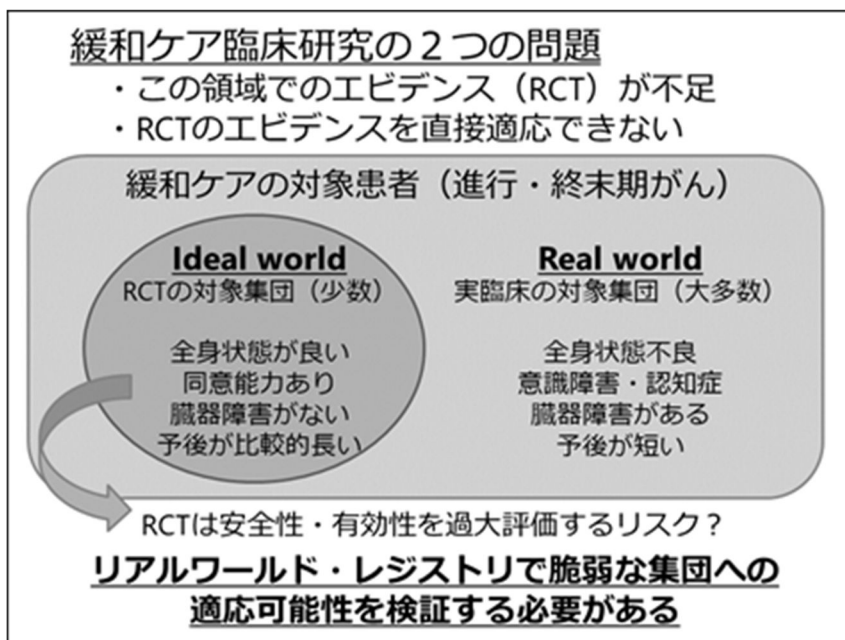
本研究の成果をガイドラインに収載されることで、臨床現場における患者ケアの質の向上に寄与する。

本研究で構築された研究枠組みが、継続的なエビデンス創出基盤として機能するよう調整を進める。

これらの目的を達成することで、終末期がん患者の苦痛緩和に資する、より適切な薬物療法の選択に貢献することを目指す。

3. 研究の方法

本研究は、多施設共同前向きレジストリ研究として実施される。終末期がん患者の難治性症状に対する薬物療法のリアルワールドでの安全性・有効性を明らかにするため、以下の手順で研究を進める。

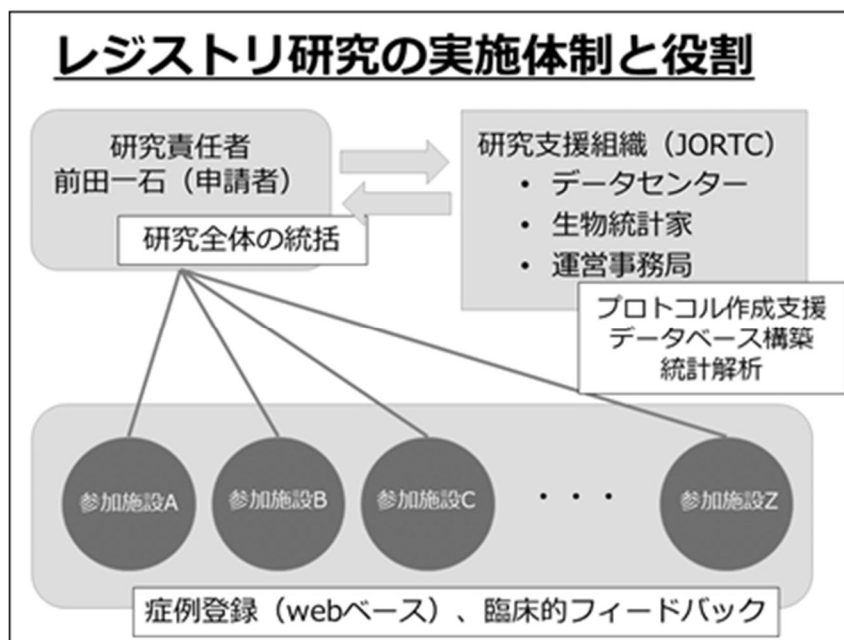


対象となる難治性症状および症状緩和治療の特定と整理:

研究協力者との協議を通じて、実臨床における該当症例数、治療内容、アウトカム指標を整理する。

悪心嘔吐、苦痛緩和のための鎮静、せん妄、死前喘鳴、オピオイド誘発性便秘症、呼吸困難、予後予測など、これまでの研究で成果を上げてきた症状に加え、新たな難治性症状（難治性疼痛、気道分泌亢進など）についても対象とする予定である。

プロトコルの作成と倫理審査の実施:



対象症例の適格・除外基準、治療レジメン、アウトカム指標の設定に関する予備的検討を行う。研究参加施設およびデータセンターと綿密な調整を行い、プロトコルを確定させる。

『人を対象とした医学系研究に関する倫理指針』に則り、すべての参加施設の倫理委員会で承認を得る。終末期がん患者の脆弱性を考慮し、研究内容の公表と対象者への拒否権の付与を行った上で、個別の患者同意は取得しないオプトアウト方式を基本として実施する。

Webベースのレジストリ構築:

データセンターと協力し、セキュアな Electronic Data Capture (EDC) システムを用いた web ベースのレジストリを構築する。患者個人を特定できる情報は収集せず、研究用の ID で識別する。症例登録とデータ収集:

プロトコル確定、倫理審査承認、レジストリ構築が完了次第、研究参加施設での実際の症例登録を開始する。

リアルワールドの診療データを反映させるため、通常臨床の範囲内で実施可能な治療・評価項目とする。

薬物療法は複数のレジメンがあり得るため、単相のデータが複数並行して収集されるような効率的なデータ収集を目指す。

目標症例数を考慮し、各治療レジメン内およびレジメン間の比較が可能な十分な症例数を集積する。

データモニタリング、解析、論文化:

データ収集期間中には定期的なデータモニタリングを実施し、データの質を確保する。

目標症例数達成後、データ固定を行い、生物統計家の支援を受けながら統計解析を進める。

得られたリアルワールドデータを用いて、各薬物療法の安全性・有効性を明らかにし、既存のランダム化比較試験等の結果との比較検討を行う。

解析結果に基づき、論文作成および学会発表を行う。これまでの研究で収集したデータのうち、未論文化の課題についても優先的に論文化を進める。

研究体制の継続と新たなエビデンス創出:

研究期間延長の必要性を検討し、データの論文化、学会発表を継続する。

研究参加施設、データセンターとの緊密な連携を継続し、終末期がん患者に対する緩和治療の RWD を得られる仕組みが継続されるよう調整を行う。

本研究で構築された研究体制を基盤とし、今後も他の終末期難治性症状に関するレジストリ研究を立ち上げ、継続的なエビデンス創出を目指す。

4. 研究成果

本研究は、2020年度から2024年度までの5年間（1年の延長を含む）にわたり実施され、終末期がん患者の難治性症状に対する薬物療法のリアルワールドにおける安全性・有効性を明らかにするという目的において、多大な成果を上げてきた。

初期の進捗（2020年度）は、コロナ禍の影響によりプロトコル確定や倫理審査、レジストリ構築に遅延が生じたが、対象症例の適格・除外基準、治療レジメン、アウトカム設定に関する予備的検討を進め、プロトコル作成の段階に到達した。研究参加施設やデータセンターとの密なコミュニケーションを通じて、リアルワールドデータを得られる仕組みの構築を急いだ。

2021年度には、以下の主要な成果を報告した。

悪心嘔吐に対する薬物療法の報告（Maeda I et al. Support Care Cancer. 2021 Oct）
研究協力者と共同して、苦痛緩和のための鎮静に関する実臨床データを報告（Yokomichi N, Maeda I et al. Palliat Med. 2022 Jan）

せん妄に関する実臨床データを報告（Yokomichi N, Maeda I et al. J Pain Symptom Manage. 2022 Mar）

2022年度には、さらなる成果を挙げた。

せん妄治療に関する総説を作成し英文誌に投稿（Maeda I et al. J Pain Symptom Manage. 2023 Jan;65(1):e81-e85.）

研究協力者と共同して、せん妄に関する複数の実臨床データを報告（Abe A, Maeda I et al. Jpn J Clin Oncol. 2023 Mar 30;53(4):321-326., Inoue S, Maeda I Acta Med Okayama. 2022 Apr;76(2):195-202. 他）

死前喘鳴に関する実臨床データを報告（Yamaguchi T, Maeda I. Jpn J Clin Oncol. 2022 Jul 8;52(7):774-778., Yamaguchi T, Maeda I. BMJ Support Palliat Care. 2022 Nov 10）

2023年度も引き続き重要な成果を報告した。

研究協力者と共同して、せん妄に関する臨床データを報告（Kurisu K, Maeda I et al. Support Care Cancer. 2024 Feb 8;32(3):147., Imai K, Maeda I et al. J Pain Symptom Manage. 2023 Jun;65(6):479-489.）

終末期鎮静に関する臨床データを報告（Maeda S, Maeda I et al. J Palliat Med. 2023 Nov;26(11):1501-1509.）

予後予測に関する臨床データを報告（Hiratsuka Y, Maeda I et al. J Hosp Palliat Care. 2023 Mar 1;26(1):1-6.）

収集したデータの一部に未論文化の課題があったため、2024年度に研究期間を延長し、これらのデータの論文化および学会発表を進めることを決定した。

そして2024年度には、研究期間延長の成果として、さらに多くの臨床データが報告された。

オピオイド誘発性便秘症に関する臨床データを報告（Shimizu M, Maeda I. Support Care Cancer. 2024 Jul 10;32(8):504.）

せん妄に関する臨床データを報告（Hasegawa T, Maeda I. J Palliat Med. 2025 Apr;28(4):437-445.）

呼吸困難に関する臨床データを報告（Hasegawa T, Maeda I. Cancer Med. 2025 Feb;14(3):e70677.）

予後予測に関する臨床データを報告（Mori M, Maeda I. J Palliat Med. 2025 Mar;28(3):345-350.）

これらの成果は、1年間の延長を含む5年間の研究期間中に20本を超える査読論文として報告され、世界的にもエビデンスの少ない緩和ケア・終末期ケア領域における国内の多施設研究の基盤構築に大いに貢献したものと考えられる。本研究で構築された研究体制が今後も存続し、臨床に資するエビデンスが多数発信されることが期待される。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計25件（うち査読付論文 20件 / うち国際共著 2件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Amano Koji, Okamura Satomi, Baracos Vickie, Mori Naoharu, Sakaguchi Tatsuma, Uneno Yu, Hiratsuka Yusuke, Hamano Jun, Miura Tomofumi, Ishiki Hiroto, Yokomichi Naosuke, Hatano Yutaka, Morita Tatsuya, Mori Masanori	4. 巻 23
2. 論文標題 Fluid retention and weight loss in refractory cancer cachexia	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 BMJ Supportive & Palliative Care	6. 最初と最後の頁 epub
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1136/spcare-2024-004820	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Kurusu Ken, Inada Shuji, Maeda Isseki, Nobata Hiroyuki, Ogawa Asao, Iwase Satoru, Uchida Megumi, Akechi Tatsuo, Amano Koji, Nakajima Nobuhisa, Morita Tatsuya, Sumitani Masahiko, Yoshiuchi Kazuhiro	4. 巻 32
2. 論文標題 Effectiveness of antipsychotics for managing agitated delirium in patients with advanced cancer: a secondary analysis of a multicenter prospective observational study in Japan (Phase-R)	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Supportive Care in Cancer	6. 最初と最後の頁 147-151
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/s00520-024-08352-2	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hiratsuka Yusuke, Suh Sang-Yeon, Yoon Seok Joon, Choi Sung-Eun, Kim Sun Hyun, Hui David, Cheng Shao-Yi, Huang Hsien-Liang, Chen Ping-Jen, Peng Jen-Kuei, Mori Masanori, Yamaguchi Takashi, Maeda Isseki, Tsuneto Satoru, Morita Tatsuya	4. 巻 13
2. 論文標題 How different are accuracies of clinicians' prediction of survival by assessment methods?	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Annals of Palliative Medicine	6. 最初と最後の頁 49 ~ 56
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.21037/apm-23-393	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takeda Yuma, Ishiki Hiroto, Oyamada Shunsuke, Otani Hiroyuki, Maeda Isseki, Yamaguchi Takashi, Hamano Jun, Mori Masanori, Morita Tatsuya	4. 巻 epub
2. 論文標題 Symptoms and Prognoses of Patients With Breast Cancer and Malignant Wounds in Palliative Care Units: The Multicenter, Prospective, Observational EASED Study	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 American Journal of Hospice and Palliative Medicine?	6. 最初と最後の頁 epub
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/10499091231219855	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Amano Koji, Baracos Vickie, Okamura Satomi, Yamada Tomomi, Maeda Isseki, Otani Hiroyuki, Ishiki Hiroto, Miura Tomofumi, Hamano Jun, Hatano Yutaka, Morita Tatsuya, Mori Masanori	4. 巻 epub
2. 論文標題 Low serum creatinine as a prognostic marker in advanced cancer	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 BMJ Supportive & Palliative Care	6. 最初と最後の頁 epub
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1136/spcare-2023-004646	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hiratsuka Yusuke, Hamano Jun, Mori Masanori, Maeda Isseki, Morita Tatsuya, Suh Sang-Yeon	4. 巻 26
2. 論文標題 Prediction of Survival in Patients with Advanced Cancer: A Narrative Review and Future Research Priorities	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 The Korean Journal of Hospice and Palliative Care	6. 最初と最後の頁 1~6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14475/jhpc.2023.26.1.1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shiraishi Ryuto, Kizawa Yoshiyuki, Mori Masanori, Maeda Isseki, Hatano Yutaka, Ishiki Hiroto, Miura Tomofumi, Yokomichi Naosuke, Kodama Maiko, Inoue Keiko, Otomo Sen, Yamaguchi Takashi, Hamano Jun	4. 巻 4
2. 論文標題 Comparison of Symptom Severity and Progression in Advanced Cancer Patients Among Different Care Settings: A Secondary Analysis	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Palliative Medicine Reports	6. 最初と最後の頁 139~149
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1089/pmr.2023.0011	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Maeda Sayaka, Morita Tatsuya, Yokomichi Naosuke, Imai Kengo, Tsuneto Satoru, Maeda Isseki, Miura Tomofumi, Ishiki Hiroto, Otani Hiroyuki, Hatano Yutaka, Mori Masanori	4. 巻 26
2. 論文標題 Continuous Deep Sedation for Psycho-Existential Suffering: A Multicenter Nationwide Study	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Journal of Palliative Medicine	6. 最初と最後の頁 1501 ~ 1509
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1089/jpm.2023.0140	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kadono Toru, Ishiki Hiroto, Yokomichi Naosuke, Ito Tetsuya, Maeda Isseki, Hatano Yutaka, Miura Tomofumi, Hamano Jun, Yamaguchi Takashi, Ishikawa Ayaka, Suzuki Yuka, Arakawa Sayaka, Amano Koji, Satomi Eriko, Mori Masanori	4. 巻 13
2. 論文標題 Malignancy-related ascites in palliative care units: prognostic factor analysis	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 BMJ Supportive & Palliative Care	6. 最初と最後の頁 e1292 ~ e1299
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1136/spcare-2023-004286	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hamano Jun, Takeuchi Ayano, Mori Masanori, Saitou Yasuhiro, Yamaguchi Takahide, Miyata Nobuyuki, Shimizu Masakatsu, Yamamoto Ryo, Kimura Yousuke, Kamiyama Yoshiyuki, Arai Yasuyuki, Matsuo Hiroshi, Shishido Hideki, Nakano Kazushi, Yokomichi Naosuke, Maeda Isseki, Yamaguchi Takashi, Morita Tatsuya	4. 巻 18
2. 論文標題 Comparison of survival times of advanced cancer patients with palliative care at home and in hospital	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 PLOS ONE	6. 最初と最後の頁 e0284147
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0284147	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Imai Kengo, Morita Tatsuya, Mori Masanori, Kiuchi Daisuke, Yokomichi Naosuke, Miwa Satoru, Okamoto Soichiro, Yamauchi Toshihiro, Naito Akemi Shirado, Matsuda Yoshinobu, Maeda Isseki, Sugano Koji, Ikenaga Masayuki, Inoue Satoshi, Satomi Eriko	4. 巻 65
2. 論文標題 Visualizing How to Use Antipsychotics for Agitated Delirium in the Last Days of Life	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Journal of Pain and Symptom Management	6. 最初と最後の頁 479 ~ 489
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jpainsymman.2023.01.004	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hiratsuka Yusuke, Oishi Takayuki, Miyashita Mitsunori, Morita Tatsuya, Mack Jennifer W, Imai Hiroo, Mori Takahiro, Sakayori Masato, Mori Masanori, Maeda Isseki, Hamano Jun, Ishioka Chikashi, Inoue Akira	4. 巻 53
2. 論文標題 Prognostic awareness in Japanese patients with advanced cancer: a follow-up cohort study	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Japanese Journal of Clinical Oncology	6. 最初と最後の頁 410 ~ 418
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/jjco/hyad002	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Abe Akiko, Fujisawa Daisuke, Miyajima Kaya, Takeuchi Emi, Takeuchi Mari, Mimura Masaru, Imai Kengo, Uemura Keiichi, Watanabe Hiroaki, Matsuo Naoki, Matsuda Yoshinobu, Maeda Isseki, Ogawa Asao, Yoshiuchi Kazuhiro, Iwase Satoru	4. 巻 53
2. 論文標題 Influence of dosing pattern of antipsychotics on treatment outcome of delirium in patients with advanced cancer	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Japanese Journal of Clinical Oncology	6. 最初と最後の頁 321 ~ 326
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/jjco/hyac205	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yamaguchi Takashi, Yokomichi Naosuke, Yamaguchi Takuhiro, Maeda Isseki, Matsunuma Ryo, Tanaka-Yagi Yukako, Akatani Asami, Suzuki Kozue, Kohara Hiroyuki, Taniyama Tomohiko, Matsuda Yosuke, Nakajima Nobuhisa, Morita Tatsuya, Tsuneto Satoru, Mori Masanori	4. 巻 13
2. 論文標題 Anticholinergic drugs for death rattle in dying patients with cancer: multicentre prospective cohort study	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 BMJ Supportive & Palliative Care	6. 最初と最後の頁 462 ~ 471
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1136/spcare-2022-003823	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ohinata Hironori, Aoyama Maho, Hiratsuka Yusuke, Mori Masanori, Kikuchi Ayako, Tsukuura Hiroaki, Matsuda Yosuke, Suzuki Kozue, Kohara Hiroyuki, Maeda Isseki, Morita Tatsuya, Miyashita Mitsunori	4. 巻 13
2. 論文標題 Symptoms, performance status and phase of illness in advanced cancer: multicentre cross-sectional study of palliative care unit admissions	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 BMJ Supportive & Palliative Care	6. 最初と最後の頁 e1174 ~ e1180
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1136/spcare-2022-003806	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hui D, Agar M, Maeda I.	4. 巻 65
2. 論文標題 Should Neuroleptics Be Used in Patients With Delirium Seen by Palliative Care?	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 J Pain Symptom Manage.	6. 最初と最後の頁 e81-85
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jpainsymman.2022.09.015.	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Abe A, Fujisawa D, Miyajima K, Takeuchi E, Takeuchi M, Mimura M, Imai K, Uemura K, Watanabe H, Matsuo N, Matsuda Y, Maeda I, Ogawa A, Yoshiuchi K, Iwase S.	4. 巻 53
2. 論文標題 Influence of dosing pattern of antipsychotics on treatment outcome of delirium in patients with advanced cancer.	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Jpn J Clin Oncol.	6. 最初と最後の頁 321-326.
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/jjco/hyac205.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Inoue S, Maeda I, Ogawa A, Yoshiuchi K, Terada S, Yamada N.	4. 巻 76
2. 論文標題 Safety and Effectiveness of Perospirone in Comparison to Risperidone for Treatment of Delirium in Patients with Advanced Cancer: A Multicenter Prospective Observational Study in Real-World Psycho-Oncology Settings.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Acta Med Okayama.	6. 最初と最後の頁 195-202.
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18926/AMO/63414.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yamaguchi T, Yokomichi N, Yamaguchi T, Maeda I, Matsunuma R, Tanaka-Yagi Y, Akatani A, Suzuki K, Kohara H, Taniyama T, Matsuda Y, Nakajima N, Morita T, Tsuneto S, Mori M.	4. 巻 epub
2. 論文標題 Anticholinergic drugs for death rattle in dying patients with cancer: multicentre prospective cohort study.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 BMJ Support Palliat Care.	6. 最初と最後の頁 epub
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1136/spcare-2022-003823.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yamaguchi T, Mori M, Maeda I, Matsunuma R, Tanaka-Yagi Y, Nishi T, Kizawa Y, Tsuneto S, Shima Y, Masukawa K, Miyashita M.	4. 巻 52
2. 論文標題 The impact of death rattle on bereaved families: not the sound itself, but the resonance with their feelings.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Jpn J Clin Oncol.	6. 最初と最後の頁 774-778.
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/jjco/hyac055.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Maeda Isseki, Satomi Eriko, Kiuchi Daisuke, Nishijima Kaoru, Matsuda Yoshinobu, Tokoro Akihiro, Tagami Keita, Matsumoto Yoshihisa, Naito Akemi, Morita Tatsuya, Iwase Satoru, Otani Hiroyuki, Odagiri Takuya, Watanabe Hiroaki, Mori Masanori	4. 巻 29
2. 論文標題 Patient-perceived symptomatic benefits of olanzapine treatment for nausea and vomiting in patients with advanced cancer who received palliative care through consultation teams: a multicenter prospective observational study	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Supportive Care in Cancer	6. 最初と最後の頁 5831 ~ 5838
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s00520-021-06067-2	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yokomichi Naosuke, Yamaguchi Takuhiro, Maeda Isseki, Mori Masanori, Imai Kengo, Shirado Naito Akemi, Yamaguchi Takashi, Terabayashi Toru, Hiratsuka Yusuke, Hisanaga Takayuki, Morita Tatsuya	4. 巻 36
2. 論文標題 Effect of continuous deep sedation on survival in the last days of life of cancer patients: A multicenter prospective cohort study	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Palliative Medicine	6. 最初と最後の頁 189 ~ 199
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/02692163211057754	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yokomichi Naosuke, Maeda Isseki, Morita Tatsuya, Yoshiuchi Kazuhiro, Ogawa Asao, Hisanaga Takayuki, Sakashita Akihiro, Nakahara Rika, Kaneishi Keisuke, Iwase Satoru	4. 巻 epub
2. 論文標題 Association of Antipsychotic Dose With Survival of Advanced Cancer Patients With Delirium	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Pain and Symptom Management	6. 最初と最後の頁 epub
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jpainsymman.2022.03.005	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Maeda Isseki, Inoue Shinichiro, Uemura Keiichi, Tanimukai Hitoshi, Hatano Yutaka, Yokomichi Naosuke, Amano Koji, Tagami Keita, Yoshiuchi Kazuhiro, Ogawa Asao, Iwase Satoru	4. 巻 24
2. 論文標題 Low-Dose Trazodone for Delirium in Patients with Cancer Who Received Specialist Palliative Care: A Multicenter Prospective Study	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Palliative Medicine	6. 最初と最後の頁 914 ~ 918
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1089/jpm.2020.0610	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hatano Yutaka, Morita Tatsuya, Mori Masanori, Maeda Isseki, Oyamada Shunsuke, Naito Akemi Shirado, Oya Kiyofumi, Sakashita Akihiro, Ito Satoko, Hiratsuka Yusuke, Tsuneto Satoru	4. 巻 19
2. 論文標題 Complexity of desire for hastened death in terminally ill cancer patients: A cluster analysis	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Palliative and Supportive Care	6. 最初と最後の頁 646 ~ 655
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1017/S1478951521000080	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 1件)

1. 発表者名 Hironori Ohinata, Mitsunori Miyashita, Isseki Maeda
2. 発表標題 Association between patient complexity and Phase of Illness at referral to palliative care unit"
3. 学会等名 13th World Research Congress of the European Association for Palliative Care (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 前田一石
2. 発表標題 ワークショップ4 : ProsCons企画 : 週単位の予後と考えられる患者の頻回なレスキュー投与を許容するか
3. 学会等名 第29回日本緩和医療学会学術大会 第37回日本サイコオンコロジー学会総会 合同学術大会 (招待講演)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 前田一石
2. 発表標題 緩和ケア病棟に紹介される患者の抱える複雑性complexityの検討；年齢区分ごとの比較
3. 学会等名 第5回日本緩和医療学会関西支部会
4. 発表年 2024年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	羽多野 裕 (Hatano Yutaka) (30516034)	特定非営利活動法人JORTC・臨床研究部門・外来研究員 (92670)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------